

第3次世田谷区立図書館ビジョン 素案 《概要版》

基本理念

知と学びと文化の情報拠点

図書館の公共性の観点に立ち、子どもが本に親しみ、豊かな精神的成長を助けるとともに、大人の知的欲求と学習意欲に応えます。さらに、読書や地域文化の情報収集と発信を通じて世田谷の魅力を見出し、それらの活動や文化の担い手なるコミュニティの醸成につながる交流の場所、地域に開かれた知的な居場所をめざします。

3つの視点

子ども

子どもは、利用者の16%を構成する重要なサービス対象者です。彼らが図書館に満足し利用しているかどうかは、図書館サービスとして極めて重要です。また、子どもは未来の世田谷を支える主体であり、彼らの成長こそ、次世代の世田谷の可能性を切り開きます。子どもが読書の楽しさや知識や情報の大切さを知り、本に親しみながら創造性を育み、また、想像力を養うことができるよう、そのための機会や環境を提供します。そして、彼らの健やかで豊かな成長を支えます。

なお、第3次図書館ビジョンにおいて「子ども」といった場合、基本的にゼロ歳から18歳未満までを指しますが、うち、特に中高生及びそれに相当する年齢の子ども達を指す場合は、「中高生世代」と言います。

地域文化とコミュニティ

私たちは地域の中で、様々な人や機関との繋がりの中で社会生活を送っています。また、地域は歴史を持っており、私たちも地域の記憶を持ち過去との繋がりを感じながら生活しています。人々が地域を知り、地域に愛着を感じ、さらに地域の人々と繋がり協力しあって生きていくことは、持続可能な地域社会を作っていくうえで極めて重要です。図書館は、地域の文化を支え、地域の繋がりや促進に努めます。

社会的包摂

社会は多様な属性を持った人々によって構成されており、今日、その人らしく、また、その特性を生かして、参画していけるような社会となることが求められています。人々がお互いに理解し合い協力し合うためには、知識や情報の共有及び考え方の相互理解が不可欠です。図書館は、様々な属性を持った方々に対して、その特性に応じた資料及びサービスの提供を行い、暮らしや学びに必要な知識や情報、社会生活や社会活動のための知識や文化、教養等を共有するための社会基盤として機能し、人々を包摂するコミュニティづくりに貢献します。

施策展開の柱 (基本方針)

事業方針(図書館のサービスの方向性を示す施策体系)

区民の「知と学びと文化」を支える図書館

- (1) 課題解決支援など調査研究の支援
調べものに有効なコレクションの構築と提供
調査に有効なりモト情報源の活用検討
レファレンスサービスの強化
- (2) 電子書籍ほか様々な情報メディアの収集・提供
電子書籍サービスの拡充
新たな情報メディアの収集・提供の検討
区の発行する資料の収集・提供
- (3) 多様で豊かな学びの支援
知識を深め認識の世界を広げるようなコレクションの構築と提供
本の世界をより深く理解するための様々な学びの場の提供
学習成果を発信し、交流する機会の提供

地域の特徴を活かし人々がつながる図書館

- (1) 地域の特徴に対応した資料の収集
地域・まちづくり・区民活動に関する資料の収集
地域の人々や関係機関と連携した地域の記録や記憶の収集・公開
地域資料のデジタル化検討
- (2) 地域活動団体との連携・協働
地域の各施設、機関との連携
地域の人々との連携、地域の人々の図書館活動への参加
地域の活動団体への資料の提供
- (3) 居心地の良い知的刺激のあふれる施設づくり
落ち着いて快適に読書や調べものができる施設づくり
イベントや展示ができるスペースの確保
施設の改修による快適性の確保

子どもの健やかな成長を支える図書館

- (1) 子どもが本に出会う機会を広げる
子どもの読書を支援する取り組みの拡充
読書や図書館に興味を持つ子ども達の支援
- (2) 読みづらさを抱える子どもに対するサービス
読みづらさを抱える子どもへの対応
図書館利用に困難を抱える子どもへの対応
日本語以外を母語とする子どもへのサービス
- (3) 中高生世代の居場所となりその成長を支える取り組み
中高生世代の興味関心に合ったイベントの開催
中高生世代へのサービスの推進に向けた資料等の充実
- (4) 学校図書館との連携、役割分担の明確化
学校及び学校図書館等への資料・情報の提供・支援
学校図書館等と区立図書館の連携体制づくり

それぞれの特性に対応した、多様な人々を包摂する図書館

- (1) 障害があっても利用しやすい資料とサービスの充実
対面朗読サービスの提供
デジタルデータの提供
来館困難な方へのサービス
- (2) 高齢者サービスの推進
高齢者が使いやすい図書館づくり
- (3) 日本語以外を母語とする人々に対するサービス
日本語以外を母語とする人々への資料提供等
日本語以外を母語とする人々への利用案内等
- (4) デジタルデバイスへの対応
デジタル機器を上手く使いこなせない方に対する情報社会参加の支援
デジタルコンテンツ閲覧環境の充実

図書館DXとリモートサービスの推進

- (1) 非来館型図書館サービスの充実
図書館ホームページ機能の充実
図書館サービスを利用するためのアプリの検討
非来館型図書館サービスの取り組み
- (2) 図書館利用の利便性の向上
貸出・返却の利便性向上
閲覧席の予約システムの検討
- (3) 次世代図書館情報システムの機能検討
図書館情報システムの機能検討
AIの活用検討

専門性と効率性を両立した運営体制

- (1) 図書館運営に関する高い専門性の確保
職員に必要なスキルと専門知識の向上
図書館運営マネジメント能力向上
- (2) 効率的効果的な図書館運営の在り方
これまで実施した業務委託館、指定管理館の運営評価の実施
直営及び民間活用それぞれの強み弱みを踏まえた施設ごとの管理運営方式の検討
中央図書館のマネジメント機能の充実
- (3) 事業・運営の指針・目標の設定
定期的な事業実施状況や運営状況の評価
評価や運営方針への利用者視点の取り込み
図書館運営の成果を的確に把握できる評価指標の検討
SDGsに配慮した図書館経営